

三瓶自然館野外観察コーナーで見られた鳥類 — 2020年度の調査記録 —

星野由美子*

A Record of Wild Bird Observed From Birdwatching Room in The Shimane Nature Museum of Mt.Sanbe — Survey record for 2020 —

Yumiko Hoshino

1. はじめに

島根県立三瓶自然館では、野外の自然を展示の一部として位置づけている。そのひとつとして、本館1・2階の一角に「野外観察コーナー」を設け、人工的に配した巨石の上に、適度な量の水を流し、野鳥のための水浴びや水飲み場（以下、水場）としている。この水場には1991年の開館当初から多くの野鳥が水浴びに訪れており、出現した鳥類については、2000～2005年（第Ⅰ期）および2010～2015年（第Ⅱ期）にかけて実施した調査結果を報告している（星野, 2004; 2015）

前回の調査から10年が経過したため、2020年4月から第Ⅲ期の調査を開始した。

ここでは第Ⅲ期調査の初年度である2020年4～11月に観察された鳥類を報告する。

2. 調査地の概要

島根県立三瓶自然館は、島根県のほぼ中央にある三瓶山（標高1,126 m）の北麓、標高約550m付近にある。施設は、1991年に開館した本館のほかに、2002年に増築された別館と新館の大きな3つの建物を有しており、山腹に建設された各施設を、長い回廊が山肌を縫うようにつなげている。野外観察コーナーは、本館1・2階の奥まった一角にあり、大きなガラス張りの窓から、奥行き約10m、高さ15mの斜面に設置された水

場を観ることができる（図1）。この水場は、一般来館者は立ち入ることができない。

水場周辺の樹種は、クロモジやシデ類のほか、ウリハダカエデやコナラなども見られる。また、斜面上部にはアカマツがまとまって見られる。この樹種は、三瓶自然館が立地する北の原周辺の樹林と同様である（星野, 2015）。

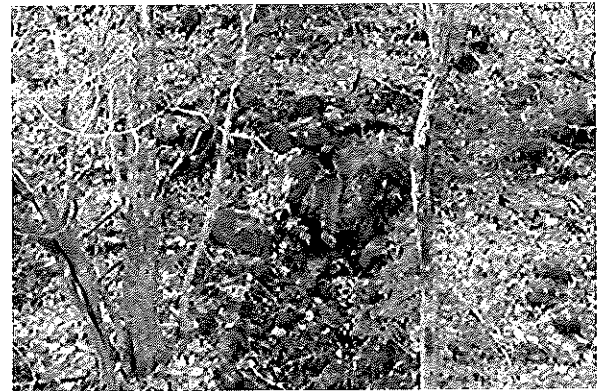


図1 三瓶自然館野外観察コーナーから見る水場

野鳥のための水場は、高さ約1 m、幅1.5mの石の上に、幅30cm、奥行き60cmのくぼみを作り、人工的な流水を約5 ml/sec. で流している。水場のすぐ脇には、野鳥の止まり木となるイヌツゲや枯れ枝などが配置されている（図2）。また、そこから約5～10m下流には、深さ1 m程度の溝があり、近年、一部に泥が溜まって水深5～15cm程度となっている部分があり、ここでも少数の水浴びが見られる。

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan



図2 野鳥の水浴び場となっている水たまり

3. 方 法

第Ⅲ期調査初年度である2020年は、4～11月に毎月1回ずつ調査を実施した。調査は、天候や来館者による影響を軽減するため、荒天でない休館日に行った(8、9月は都合により開館日に実施した)。調査時間は、9時から19時までを基本とし、日照時間が短くなる10・11月については、水場が暗くなって目視観察が不可能になる時間までの調査とした。

出現種の記録は、目視による観察を基本とし、野外観察コーナー(館内)から水場に飛来するすべての個体の種類と出現数を記録した。また水浴びは、繰り返し水場に入出入りすることも多いことから、周辺から完全に飛去しない場合は、カウントをしないようにした。

この出現数から、水場を利用する鳥類の優占度を算出したが、ここでの優占度はこれまでの調査に倣い、全出現数に対する各種の出現数の割合をその種の優占度とした。

種名等の表記は、原則として日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会, 2012)によるものとした。

4. 結 果

(1) 出現種の概要

2020年において記録された出現種数および出現数は3目14科31種、総計1,076羽となった(表1)。日本野鳥の会鳥根県支部(1997)による季節区分の内訳によると留鳥17種、夏鳥3種、冬鳥8種、旅鳥2種、掲載なし1種であった。また、環境省のレッドリスト(2020)(以下RLとする)およびに鳥根県版レッドデータブック(2014)(以下、RDBとする)掲載種はともに出現しなかった。また、これまでの調査では確認されなかった3種 ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*, ソウシチヨウ *Leiothrix lutea*, ムギマキ *Ficedula*

mugimaki が新たに確認された。

本調査地の周辺の自然環境は、落葉広葉樹林に針葉樹のアカマツが点在する樹林にある非常に狭い水場であることから、出現した種のほとんどの種類は、一般的に森林でよく見られる鳥類であり、さらに水場を水浴びや水飲みで利用した種は、全長30cm以下の比較的小型の鳥類であった。

調査期間中の出現種数の変動は図3のようになった。種類数で最も多いのは5月の19種で、ついで4月の15種であった。また最も少なかったのは8月および9月の10種であった。春の渡り期にかかる4、5月が多く、繁殖期の8月で減少し、秋の渡り期である11月にやや増加する傾向は第Ⅱ期調査(星野, 2015)でも同様であった。

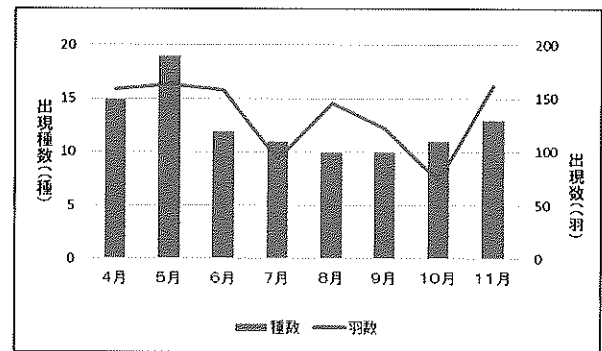


図3 月別の出現種数および出現数

今回、新たに確認された3種の出現状況は次の通りである。

①ミヤマホオジロ

本種は、冬鳥として鳥根県全域に渡来する渡り鳥である。三瓶山では雑木林の林縁付近で冬期に生息していると考えられるが、これまでの調査等による確認記録はモニタリングサイト1000里地調査において2008年および2009年の越冬期のみである(星野, 2016)。今回の確認は冬期ではなく7月17日の水場調査において成鳥のオス2羽が確認された(図4)。そのうちの1羽は、第1回夏羽と思われる羽衣であった(図5)。また、その後の追加調査でメスと思われる個体も観察され(図6)周辺で繁殖している可能性が示唆された。

②ソウシチヨウ

本種はウグイスと繁殖生態が類似していることから競合が懸念されている(江口, 2002) 特定外来種である。本種の三瓶山における記録は1900年代にはないが、2010年10月31日に室内で、同年11月1日に三瓶自然館脇の雑木林で確認されたのが最初の記録である(森・星野, 2011)。その後、三瓶山北麓の自然

表1 2020年に三瓶自然館の水場で見られた鳥類

目名	科名	和名	学名	RDB	区分	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		総計	優占度
						曇/晴	晴	曇	晴	曇/晴	晴	曇	晴	曇	晴	曇	晴	曇	晴	曇	晴		
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>		留		1	1				1									3	0.3	
スズメ目	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>		留		1														1	0.1	
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		留		2														2	0.2	
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>		留	4	1														5	0.5	
	シジュウカラ科	コガラ	<i>Parus montanus</i>		留	6	3							5	8	3	2	2			27	2.5	
		ヤマガラ	<i>Parus varius</i>		留	9	29	25	21	25	21	21	21	51	56	33	15	239			239	22.2	
		ヒガラ	<i>Parus ater</i>		留	4	18	8	5	8	5	5	5	5	11	2					53	4.9	
		シジュウカラ	<i>Parus major</i>		留	7	14	43	16	43	16	16	26	11	11	6	134				134	12.5	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>		留	7	17	12	3	7	6										52	4.8	
	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>		留																1	0.1	
		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>		夏									3	1						4	0.4	
	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		留	3	10	3						2	11	14	20				63	5.9	
	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>		留	53	14	25	17	26	15	2	10	26	15	2	10	162			162	15.1	
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>		留	2	1	1						1	2	1					9	0.8	
	ヒタキ科	マミチヤジナイ	<i>Turdus obscurus</i>		旅																24	2.2	
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		冬									3							8	0.7	
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		冬		6														6	0.6	
		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>		冬																2	0.2	
		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		夏	13	24	24	22	31	22	22	20	20	1	2	4	117			117	10.9	
		ムギマキ	<i>Ficedula muginaki</i>		旅																1	0.1	
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		夏								2								2	0.2	
	スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>		留		2	1													3	0.3	
	セキレイ科	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		留		2														2	0.2	
	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		冬	37									1	71	109				109	10.1	
		カララヒワ	<i>Chloris sinica</i>		留		4	6													10	0.9	
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>		冬	2	1														4	0.4	
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		冬	1	17														18	1.7	
		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>		留		2	2													6	0.6	
		カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>		冬	5															5	0.5	
		ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>		冬				2												2	0.2	
[外来種]																						0.0	
チメドリ目	ソウシチヨウ科	ソウシチヨウ	<i>Leiothrix lutea</i>		-																2	0.2	
					確認数	159	163	158	93	146	122	73	162	1076									
					種数	15	19	12	11	10	10	11	13	31									

留 17
夏 3
冬 8
旅 2



図4 ミヤマホオジロ オス



図7 ソウシチョウ オスと思われる個体



図5 ミヤマホオジロ第1回夏羽と思われるオス



図8 ソウシチョウ メスと思われる個体



図6 ミヤマホオジロ メスと思われる個体



図9 ムギマキ オス第1回冬羽

林内で実施したモニタリングサイト1000森林調査においても2014年の繁殖期に複数個体のさえずりが確認されている(星野, 2016)が, 北の原周辺での繁殖期の確認はこれまでなかった。本年, 水場調査では7月17日にオス1羽(図7), メスと思われる個体1羽(図8)が観察された。

③ムギマキ

本種は鳥根県では旅鳥として少数が観察される程度で, 周辺での確認もほとんどない。2000-2016年の三瓶山北麓の観察鳥類リスト(星野, 2016)でも記録さ

れていない。また, 喉が鮮やかなオレンジ色である特徴がキビタキのオスに酷似しているため, 誤認する事例も少なくない種類である。本年, 水場調査では秋の渡り期である11月4日にオス1羽(第1回冬羽)が観察された(図9)。

(2) 出現数と優占度

水場に出現した全ての出現数について, 月別の変化を表すと図3のようになった。出現数が最も多い月は5月で163羽であり, 個体数が最も少ない月は10月の73羽, ついで7月の93羽であった。これまでのI・

Ⅱ期の調査では、6～8月の繁殖期で最も多い個体数が記録されており（星野，2007; 2015），これまで筆者が報告してきた状況とは異なる結果であった。

また，出現数をもとに算出した2020年の優占度は図10のようになった。出現した全31種のうち優占度5%以上の鳥は6種で，全出現数における割合は76.8%程度であった。優占度が高かった種は，上から順にヤマガラ *Poecile varius* 22.2%，メジロ *Zosterops japonicus* 15.1%，シジュウカラ *Parus minor* 12.5%，キビタキ *Ficedula narcissina* 10.9%，アトリ *Fringilla montifringilla* 10.1%が10%以上であり，以下エナガ *Aegithalos caudatus* が5%以上であった。

これらの優占度が高い6種については，第Ⅱ期水場鳥類調査でも優占度の上位（5%以上）8種（優占度上位からヤマガラ，アトリ，シジュウカラ，エナガ，メジロ，キビタキ，カワラヒワ *Chloris sinica*，ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*）に含まれていた（星野，2015）。また，第Ⅱ期で約8%であったヒヨドリとカワラヒワは出現種数が減少しており，ヒヨドリ52羽（4.8%），カワラヒワ10羽（0.93%）であった。

以下，優占度の高い6種の本年における出現状況である。

①ヤマガラ・シジュウカラ

これら2種は，調査期間中をとおして一定の数が観察される種類である（図11）。最も優占度が高いヤマ

ガラ（22.2%）と優占度第3位のシジュウカラ（12.5%）は，第Ⅱ期の調査でもヤマガラ（18.7%）が優占度第1位，シジュウカラ（12.9%）が第3位でほぼ同様の出現状況であった（星野，2015）。この2種は，巣箱などを利用して繁殖することが知られており，水場周辺でも巣箱や建物などの人工構造物の隙間を利用した巣作りが確認されている。それ以外の種が，周辺の樹木などに自ら作った巣で繁殖していることと比べると，比較的，水場周辺に営巣可能な環境が安定していると考えられる。

②メジロ

本年の調査では優占度第2位がメジロであった。メジロのこれまでの月別変化は，多くの年では4月から8月には出現数が多くなるが，9月をすぎると減少し，11月以降は観察されなくなることから，水場周辺では夏鳥的な飛来特性であることを報告してきた（星野，2004; 2015）。本年も同様の傾向が見られたが，11月の出現数はやや増加していたことが，これまでの出現傾向とは大きく異なっていた（図12）。

メジロの生活史は，磯部（1997）によると，本土では4～5月に産卵し，約23日で孵化する。ヒナは巣立った後には5～10羽の幼鳥群となって群れで生活する。繁殖期が終わると10～30羽の群れになり，冬には温暖な地に移動し，春と秋の移動の時期には，20～30羽の群れを観察することがあるとされている。このことから当地においても同様の行動が見られたと考えら

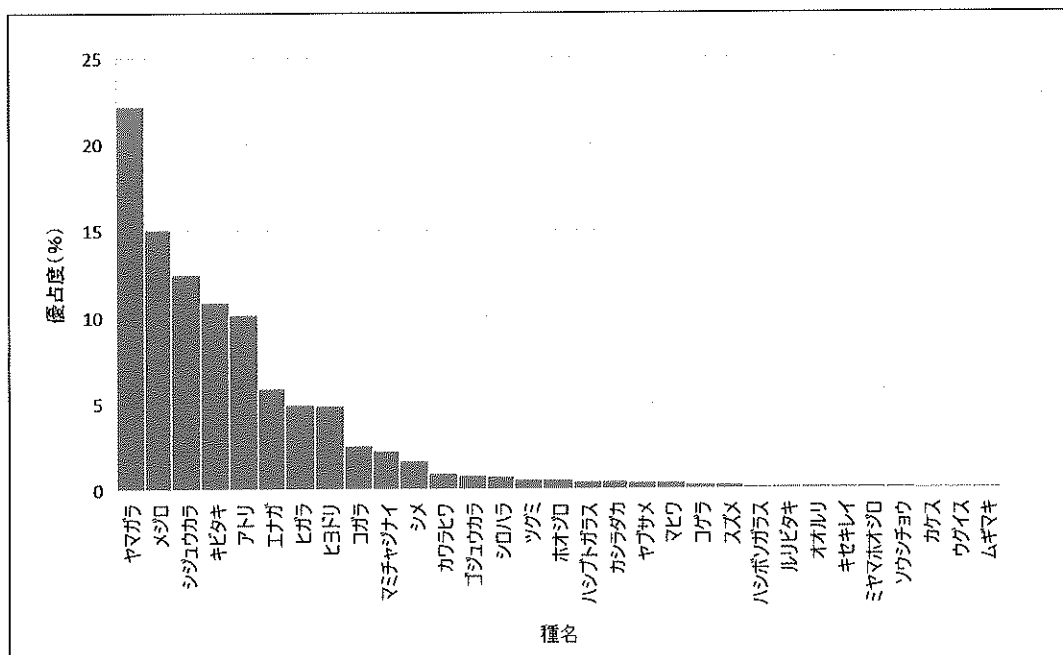


図10 出現種の優占度

れる。

③キビタキ

本種は、夏鳥として鳥根県全域に渡来して繁殖する。水場周辺では毎年2～3羽程度の成鳥雄を観察することがあり、2～3個体のさえずりも聞かれる。

出現数の月別変化は、年によって若干の変動はあるものの、5、6月に増加して7、8月頃に出現数のピークがあり、11月には観察されなくなるというパターンがこれまでの出現傾向である(星野, 2015)。

しかし、本年は6月に出現ピークがあり、9月には減少したものの例年では観察されない10、11月にも雌雄共に観察されるなど例年とは異なる動向であった(図13)。

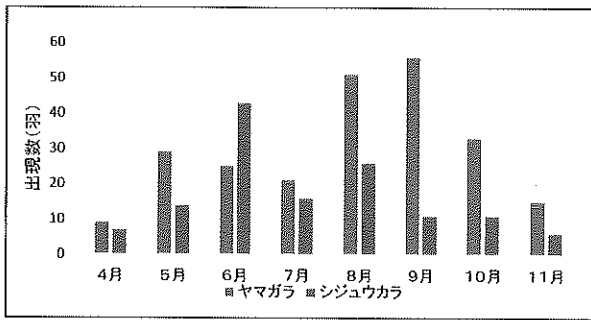


図11 ヤマガラとシジウカラの出現数

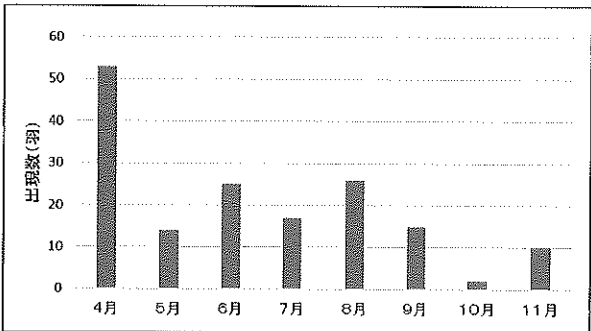


図12 メジロの出現数

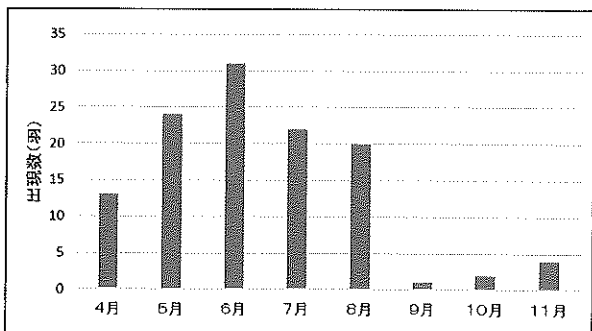


図13 キビタキの出現数

④アトリ

本種は、冬鳥として鳥根県全域に渡来する渡り鳥である。そのため、調査期間中の出現においては4月および10、11月に限られる。また群れで生活するため、水場への出現も数羽から十数羽の群れで飛来し、出現数が多くなる。本年も同様の出現状況であった(図14)。

⑤エナガ

エナガは優占度6位で5.86%であった。本種は群れで生活することが知られているが、繁殖前期の4、5月は複数で飛来したものの6～8月の出現はペアでの行動であった。9～11月には、幼鳥や若鳥、家族で構成する群れなどの出現となり、1回あたり10羽を超えるまとまった数で現れるため、結果的に飛来数も多く優占度が高くなった。また、当地では繁殖期から秋にかけて5月と9月以降の2つのピークが見られ、月別の増減幅は大きくなった(図15)。

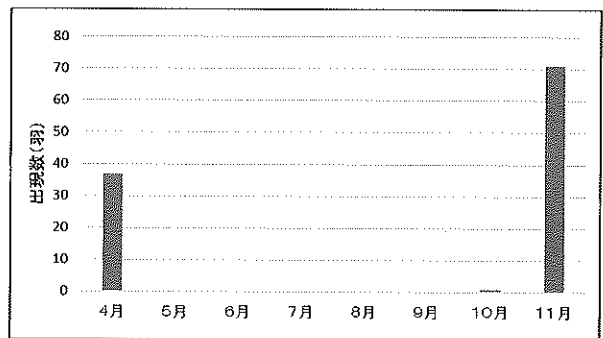


図14 アトリの出現数

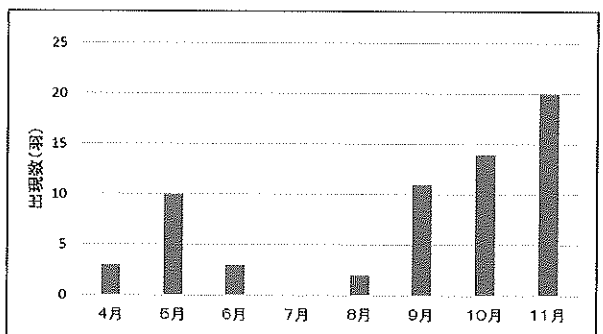


図15 エナガの出現数

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、三瓶自然館のスタッフより水場における鳥類観察の情報提供をいただいた。大隅梨央氏には調査に際してご協力をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上る。

引用文献

- 江口和洋 (2002) ソウシチョウ. 外来種ハンドブック (日本生態学会編) p.86, 地人書館, 東京
- 星野由美子 (2004) 三瓶自然館野外観察コーナーで見られる鳥類 I. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 2, 19-30
- 星野由美子 (2015) 三瓶自然館野外観察コーナーで見られる鳥類 (II). 鳥根県立三瓶自然館研究報告 13, 27-35
- 星野由美子 (2016) 2000年から2016年に三瓶山北麓で観察された鳥類. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 14, 47-55.
- 磯部清一 (1997) メジロ. 日本動物大百科4. (樋口広芳, 盛岡弘之, 山岸哲 編) p.136, 平凡社, 東京,
- 環境省 (2020) 環境省レッドリスト2020鳥類, 環境省, 東京
- 森茂晃・星野由美子 (2011) 鳥根県ソウシチョウ情報. スペキュラム 139,5-6
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 東京, pp438
- 日本野鳥の会鳥根県支部 (1997) 鳥根県鳥類リスト. しまねの鳥. 日本野鳥の会鳥根県支部, pp164-181
- 鳥根県 (2014) 改訂しまねレッドデータブック, 鳥根県, 鳥根